05 芝浦アーバンデザイン・スクール

概要

芝浦アーバンデザイン・スクールは大学と地域が連携して都市の魅力を再発見・再検討するプロジェクトです。環境保全、安全安心、持続経済など都市のあり方と建築の意味がいま改めて問われています。教育、研究、社会貢献の3つの学びを通して建築、都市、地域の未来を探ります。学内外および国内外に開かれた場になるようにまちづくりの国際用語アーバンデザインUrban designを用いています。2013年度から東京都港区と連携して芝浦・海岸地区で活動しています。この地区は都心と港湾の間にあって運河を介して新旧が混在する独特の界隈です。芝浦工業大学開設の地でもあります。地域の方々と意見交換しながらプロジェクトを進めています。

主な連携自治体と地域課題

東京都港区

本学発祥の地かつ芝浦キャンパスの地元

課題1　政治・経済・文化の中心地として活発で良好な環境作り、商業・業務・住宅のきめ細かい共存

課題2　歴史・緑・水に恵まれた環境を景観形成・都市観光に生かした都・国の魅力の創出

課題3　発展するIT産業、デザイン産業、高所得住民ニーズへの対応

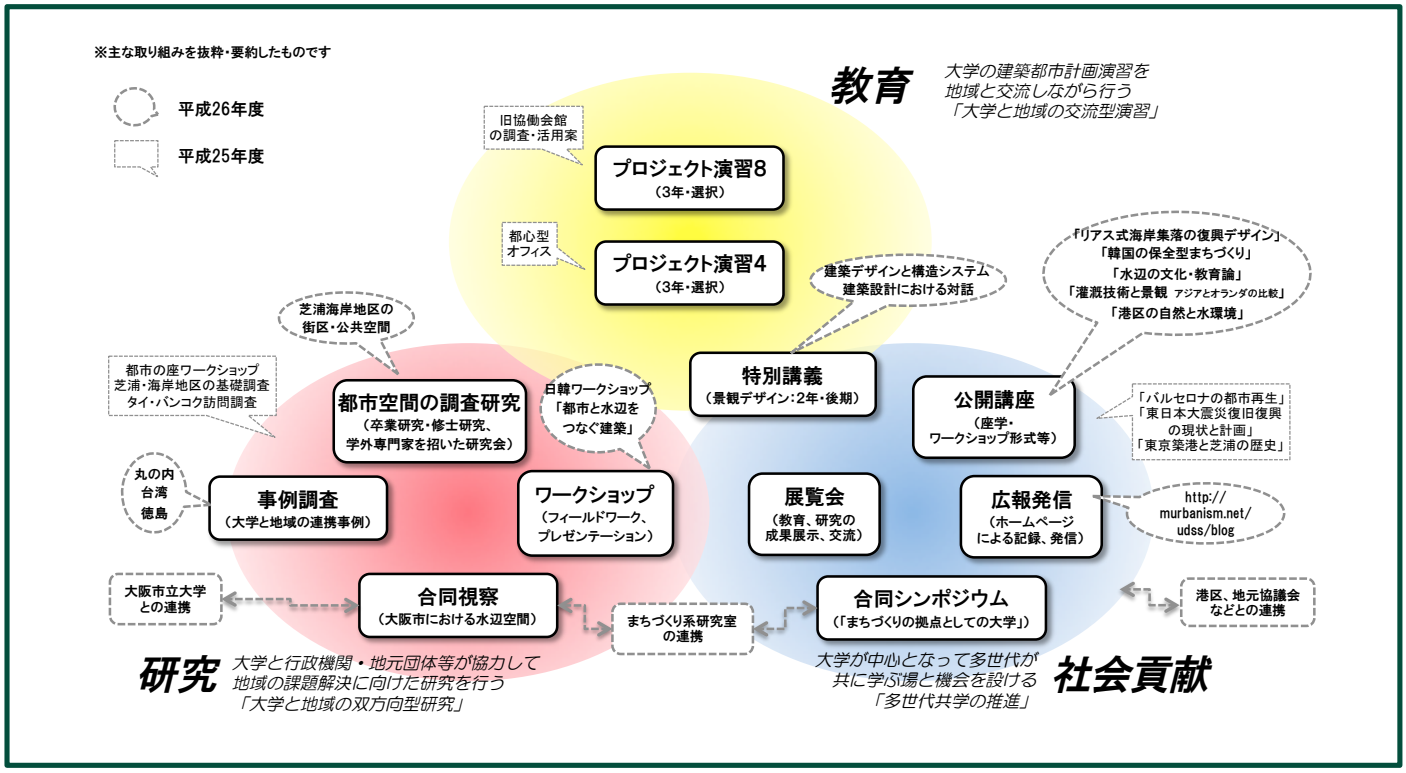
構成員

デザイン工学部デザイン工学科
建築・空間デザイン領域

前田英寿
桑田　仁
篠崎道彦
谷口大造
大成優子

05 芝浦アーバンデザイン・スクール

プロジェクトの展開



教育

地域の建築から学ぶ設計演習
Studios Learning from Architecture in Communities

アーバンデザイン・スクールはまちづくりに必要な次の3つの力を学生が身につけることを教育の目標としています。①社会の中で価値を持続する建築と空間を見抜く発見評価力、②社会の中で価値を持続する建築と空間を考案し創造する企画設計力、③様々な主体と協力して力を発揮する対話協働力。これら3つの力を備えた学生が社会に出て行政やNPO、建築・都市開発事業、大学院等研究機関といった公民学各方面で活躍することを期待しています。

交流型演習 Studios in Communication

教育の柱は建築都市計画演習を地域とやりとりしながら進める交流型演習です。地域の空間資源を題材に行政機関や地元団体と意見交換しながらアイデアとデザインを検討し、展覧会や発表会によって成果を公開します。学生の視野拡大はもとより学外の方々が学生の提案を見て建築の可能性を再発見することも期待しています。

研究

建築を通して都市を捉える
Explore Cities through Architecture and Built Environment

アーバンデザイン・スクールは次の3つの方法で地域の課題を見える化することを研究の目標としています。①地域の現状を模型・図面・写真によって視覚的に表現する、②地域が持つ可能性を建築・空間のデザインを通して検証する、③他との比較を通して対象地域の課題を相対化する。柱となるのが大学と地域が協力して行なう双方向型研究です。各段階で情報交換して研究が社会貢献につながるか点検しながら進めています。

国際交流と世界視野 International and Global

大学を介して地域と世界が直結するような教育方法や研究分野を実験しています。韓国中央大学校建築学科が来日して本学デザイン工学科建築・空間デザイン領域と合同でデザインワークショップを行ないました。東京と多くの課題を共有するアジアの水辺都市を調査しています。2013年はバンコク、2014年は台北を訪問しました。

社会貢献

都市と地域に開かれた場
Discuss Cities with Local Communities

アーバンデザイン・スクールは次の3つの面から大学と地域の多世代がまちづくりを共に学ぶ機会を設けることを社会貢献の目標としています。①住民・行政・企業・学生が同じ場に集まって議論する、②大学の成果を開示して地域の反応を教育研究にフィードバックする、③まちづくりの手法や動向を大学と地域が共有する。

公開講座と展覧会 Seminars and Exhibitions

都市や地域に関する公開講座を市民と学生が一緒に聴講します。学生が制作した作品や研究結果を芝浦キャンパスでの展覧会や地域のイベントに出展しています。大学が市民と学生の交流する場を提供することにより知を通して地域の魅力を再発見し高めようとしています。

05 芝浦アーバンデザイン・スクール

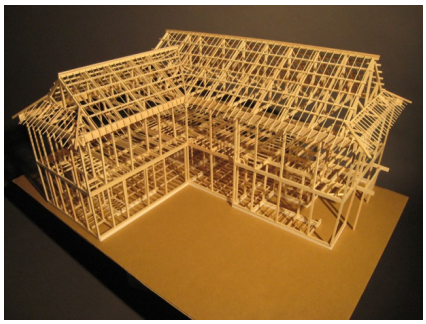
地域の建築から学ぶ設計演習 Studios Learning from Architecture in Communities

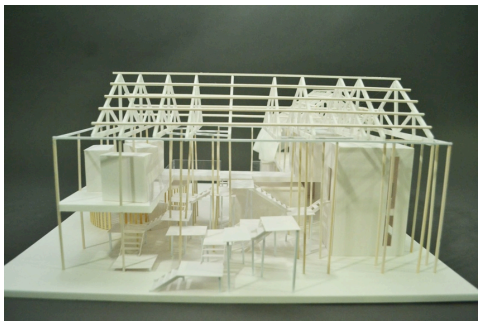
旧協働会館の保全活用
Conservation of Timber Heritage

デザイン工学科3年生プロジェクト演習8は建築都市計画の実習を地域とやりとりしながら進めています。大学から徒歩10分に残る戦前の木造建築「旧協働会館」を取り上げ、現地視察にもとづいて軸組模型を製作し、活用に向けたアイデアとデザインを検討します。2014年度は“交流・観光センター“を課題としました。

都市のワークプレイス
Workplace in the city

デザイン工学科3年生プロジェクト演習4は建築都市計画の実習を地域の現実に即して行なっています。「都市のワークスペース」をテーマに港区内の業務地区の仮想敷地にオフィスを計画します。東京都心では高容積を前提に快適な執務環境と都市景観の調和を両立することが不可避の課題です。


旧協働会館軸組模型


旧協働会館を児童遊園に転用する提案

空中庭園があるオフィスの提案

建築を通して都市を捉える Explore Cities through Architecture and Built Environment

公開講座
Open Seminars

水辺の都市や地域に関する公開講座を続けています。

2013 バルセロナの都市再生　龍谷大学阿部大輔さん
東日本大震災復興の現状と計画　岩手大学三宅諭さん
東京築港と芝浦の歴史　早稲田大学川西崇行さん
2014 リアス式海岸集落の復興デザイン東京大学窪田亜矢さん
韓国の保全型まちづくり　韓国中央大学校李政恫さん
水辺の文化・教育論　東京海洋大学佐々木剛さん
灌漑技術と景観 アジアとオランダ和歌山大学原祐二さん
港区の自然と水環境　芝浦工業大学守田優さん

芝浦・海岸地区の調査
Fieldwork

本学都市デザイン研究室が芝浦・海岸地区を継続的に調査しています。2013年度は都市模型と建築変遷図を作成して地区の経緯と現状を把握しました。卒業研究で運河沿い街区を取り上げ、学生の自由な発想を通して現状の運河沿いが未活用であることがわかりました。2014年度は道路、隣接条件、用途、高さ、空地をテーマに街区を単位に地域を分析しました。

市民と学生が聴講する公開講座

都心に近接する水辺の魅力

芝浦・海岸地区の都市模型

05 芝浦アーバンデザイン・スクール

国際交流と世界視野 International Exchange and Global View

日韓ワークショップ
Seoul and Tokyo
韓国中央大学校建築学科から3・4年生8名と教員1名が来日して本学デザイン工学科建築・空間デザイン領域3年生8名及び教員5名と合同でデザインワークショップを行ないました。日韓混合4グループが芝浦・海岸地区を題材に都市と水辺をつなぐ建築のデザインを通して地区の将来像を提案しました(2014年8～9月)。

海外都市比較調査
Bangkok, Taipei and Tokyo
東京と同じ水辺の海外大都市を比較調査しています。2013年度バンコクでは水上交通を体験し、チュラロンコン大学で講演するとともに、同大が運営する都市開発・まちづくりセンターと意見交換しました。2014年度台北では旧港地区の保全型まちづくりを視察し、台北市が地域や大学と連携して進めるURS事業を見学しました。

日韓学生が英語で共同作業

東京と同じアジア首都台北の調査

東京と同じ水辺都市バンコクの調査

都市と地域に開かれた場 Discuss Cities with Local Communities

キャンパスでの展示
Exhibition
芝浦キャンパス玄関ホールで成果を公開しています。
2014年1月20～25日　2013年度報告週間
2014年5月31日～6月14日 都市のワークプレイス展
2015年1月16～29日　2014年度報告週間

地域への出展
Participation
成果を地域の行事に出展しています。
2014年3月21日　Bay Area 365 Days(港区主催)出展
2014年9月28日　芝浦運河まつりにブース設置

キャンパスでの展覧会

キャンパスでの発表会

芝浦運河まつり